

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2016

4月

No.130



特集 P2・3

平成28年度
事業計画と予算

福祉でつながる
支えあいの地域づくり

第3次地域福祉推進計画を推進します



ひ孫と
いっしょ

一宮町 西公文

シリーズ129

あきたけ しんべえ
秋武 新兵衛さん(85歳)

キクアさん(84歳)

あおい
○碧ちゃん(1歳)

あきたけ しんや ともこ
秋武 慎也・智子さん

■長女

第3次地域福祉推進計画を推進します

福祉でつながる ま ち 支えあいの地域づくり

平成28年度
事業計画と予算

宍粟市社会福祉協議会では、3月28日（月）に開催した第28回評議員会において、平成28年度事業計画ならびに予算を可決しました。今月号では、平成28年度の基本方針と重点事業、資金収支予算書をお知らせします。



地域の活性化とつながりの拠点として、休園舎を活用し平成27年11月にオープンしたレストラン「おふくろ工房波賀・のはら」。
今、住民主体の地域づくりが広がっています。

基本方針

- 「第3次地域福祉推進計画（4か年）」を策定し、第1年次の具体的な事業に取り組みます。
- 「第3次地域福祉推進計画を進める会」を設置し、計画の進捗状況の検証や評価を行います。
- 住民主体の地域づくりに取り組むため、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の設置事業を受託し、行政と協働しながら生活支援サービスの提供体制整備に向けた取り組みを進めます。
- 質的向上や信頼される事業経営を目指して介護保険事業の経営改善計画を作成し、効果的で効率的な介護事業所運営に努めます。
- 社協活動の理解者を増やす努力を続けながら地域住民の視点に立ち、効率的で効果的な事業の見直しに取り組みます。

1

いざという時
困らない地域をつくるために

- 見守りや支援を必要とする人が地域で暮らし続けられる見守り体制を構築します。
- 介護予防につながる集いの場、居場所づくりを推進します。
- 地域・行政・NPO団体等と連携し、災害に備えた取り組みを進めます。

2

みんなで支え合える
つながりをつくるために

- 生活支援コーディネーターの設置や協働の支援を通じて住民主体の地域づくりに取り組みます。
- 新たな地域活動の担い手として退職世代の人材育成や福祉活動の理解者を増やす取り組みを進めます。
- 行政や関係団体とのネットワークを強化し、地域の課題に取り組みます。

3

自分らしく生活できる
仕組みをつくるために

- 各専門相談機関と連携した総合相談支援体制の構築に取り組みます。
- 個別支援から地域全体を包括的に支援する体制構築と情報共有や情報提供の仕組みづくりを進めます。
- 法人後見にむけた体制整備と権利擁護支援の仕組みづくりを進めます。

4

社会福祉協議会の
基盤強化のために

- 4つの支部が身近な地域福祉の拠点となるようさらなる充実を図ります。
- 自主財源確保に向けた方策研究と安定的な財政運営に取り組みます。
- 社協介護保険事業の経営改善計画を作成し、経営改善の強化を図ります。

平成28年度社協予算 4億4,431万1,000円 (前年度比82,000円減)

◆平成28年度資金収支予算書

(単位:千円)

勘定科目		本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	差引増減額 (A) — (B)	摘 要	
事業活動による収支	収入	会費収入	13,410	13,490	△ 80	社協一般会費（6月）、賛助会費（2月～3月）
		寄附金収入	13,680	13,800	△ 120	善意銀行預託金
		経常経費補助金収入	72,009	87,996	△ 15,987	市、県からの補助金収入
		受託金収入	39,513	31,323	8,190	市から委託された事業の受託金収入
		貸付事業収入	350	350	0	低所得の方への小口貸付償還金
		事業収入	20,792	24,511	△ 3,719	参加費収入、利用料収入等
		共同募金配分金収入	11,197	11,270	△ 73	平成27年度共同募金による配分金 7,097千円 平成28年度歳末たすけあい募金による配分金 4,100千円
		負担金収入	1,225	1,225	0	老人クラブ連合会、福祉団体からの負担金
		介護保険事業収入	218,784	225,235	△ 6,451	介護保険事業による収入（デイサービス、ヘルプサービス等）
		障害福祉サービス等事業収入	21,418	19,090	2,328	障がい者自立支援事業による収入（障がいホームヘルプ、相談支援）
		受取利息配当金収入	885	885	0	預金利息
		その他の収入	7,451	577	6,874	退職手当積立基金預け金差益収入、印刷代他雑収入
		事業活動収入計 (1)	420,714	429,752	△ 9,038	
	支出	人件費支出	325,976	307,047	18,929	役員報酬、職員人件費
		事業費支出	54,117	60,261	△ 6,144	社協事業全般に関する事業費
		事務費支出	39,010	45,325	△ 6,315	印刷製本費、通信運搬費、事務機器・車輛リース料、事務消耗品費等
		貸付事業支出	330	330	0	低所得の方への小口貸付金
		助成金支出	14,750	14,830	△ 80	自治会福祉連絡会、ボランティアグループ等への助成金
		負担金支出	319	1,152	△ 833	全社協・県社協負担金、その他事業の負担金
		利用者負担軽減額	108	95	13	低所得世帯に対する介護保険サービス等利用料軽減額
		その他の支出	56	0	56	退職手当積立基金預け金差損
		事業活動支出計 (2)	434,666	429,040	5,626	
	事業活動資金収支差額 (3)=(1)－(2)		△ 13,952	712	△ 14,664	
施設整備等による収支	収入	施設整備等収入計 (4)	0	0	0	
	支出	固定資産取得支出	367	5,795	△ 5,428	デイサービス介護用ベッド等の購入
		施設整備等支出計 (5)	367	5,795	△ 5,428	
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)－(5)		△ 367	△ 5,795	5,428	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	0	8,316	△ 8,316	
		その他の活動による収入	23,597	0	23,597	全社協退職積立払戻金
		その他の活動収入計 (7)	23,597	8,316	15,281	
	支出	積立資産支出	50	50	0	積立預金受取利息分を積立
		その他の活動による支出	8,728	9,008	△ 280	職員退職手当基金への積立
		その他の活動支出計 (8)	8,778	9,058	△ 280	
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)－(8)		14,819	△ 742	15,561	
予備費支出 (10)		500	500	0	予備費	
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)－(10)		0	△ 6,325	6,325	全収入－全支出 H28 年度は全収入と全支出が同額	
前期末支払資金残高 (12)		174,772	175,140	△ 368	平成 27 年度分の繰越金	
当期末支払資金残高 (11)+(12)		174,772	168,815	5,957	平成 28 年度末の資金残高予定額	

平成28年度予算の特徴

○生活支援コーディネーター配置事業を受託

平成28年度から栄栗市が実施する「地域支援事業」を受託し、生活支援コーディネーター2名を配置することとなり、受託金収入が約800万円増えています。

○外出支援サービス事業が終了

市の補助事業として実施していた本会の「外出支援サービス」について、地域公共交通の再編に伴い市からの補助が打ち切りとなり、補助金収入が約1,500万円減少しました。

○介護サービス事業所体制と人員配置を見直し

北部域での訪問介護事業(ホームヘルプサービス)利用者の減少が顕著になり、介護保険事業収入は前年度に比べ645万円減収としています。事業所を存続させて、これまでどおりの介護サービスを提供するため、事業所体制や人員配置の見直しを行いました。

○寄付金収入は減額の幅を縮小

善意銀行への預託は件数、金額ともに年々減少していますが、善意銀行への協力を積極的に呼びかけ、新たな寄付方法の開発等自主財源の確保に取り組んでいくことで減額の幅を最小限におさえています。

○事業費・事務費を約1割の削減

外出支援事業の終了に伴う車両の見直し、事務消耗品の購入や業務委託費等の内容を精査することで、社協事業全般に係る経費を約1割削減しました。

※本年度の事業計画書、予算書の詳細については、本会ホームページ、本部・各支部の窓口でご覧いただくことができます。ご遠慮なくお申し出ください。

やさしさ
まさき

「近所ボランティア学習会を開催

高齢者見守り隊「ひだまり」

高齢者見守り隊「ひだまり」は、伊沢町と大歳町の2つの自治会が連携し、ひとり暮らし高齢者等の困りごと相談や安否確認の訪問、サロン活動に取り組みられています。

3月20日(日)、この日は見守り隊員のメンバー13人が伊沢町公民館に集まり、近所ボランティアについての学習会を開催しました。

当日は、近所ボランティア活動を実践されている「e生活応援し隊」(五十波)のメンバーを招き、活動紹介や意見交換を行いました。

参加者は「若い世代にも活動してもらうためには」「支援の必要な方の気兼ねや遠慮をどう取り除くか」など、共通の課題について話し合いました。

今後は、地域の中で必要な生活支援について聞



社協が作成した小地域福祉活動モデル地区報告書やかわら版などの資料を活用して意見交換。見守り隊は有志の女性隊員と役員隊員(民生委員・自治会長・福祉委員)で活動(伊沢町公民館)

き取り調査を行い、話し合いを重ねながら地域の課題に向き合うための取り組みを進めていきます。
そして日常生活のちょっとした困りごとを、近所同士で支え合う仕組み「近所ボランティア活動」を地域の中に作っていきます。

(山崎支部 森井裕矢)

いのち
ちのみや

『うるか歳時記』を持って見守り訪問

うるか 閏賀老人クラブ

3月24日(木)、閏賀公民館を訪ねるといきいき百歳体操が行われており、体操後には、『うるか歳時記』が配布されました。

歳時記は閏賀老人クラブが毎月発行しており、昔からの地域の言い伝えや行事予定が掲載され、会員のつながりづくりにながしたいの思いが込められています。

方には、会員同士で協力し、歳時記を持って訪問します。

「集まりに参加しづらい方とも、つながりを絶やさないことが大切。歳時記があると、自然と会話はずみ、見守り訪



「歳時記持ってきたで」「ありがとう。いつも楽しみにしてるよ」

閏賀老人クラブ

活動時間

活動場所

活動内容

活動時間

活動場所

活動内容

うるか歳時記

うるか歳時記は、閏賀老人クラブが毎月発行している地域情報誌です。地域の歴史や文化、行事予定、会員のつながりづくりなどに役立つ情報が満載です。

問に役立っています」と会長「平田修一」さん。
閏賀老人クラブでは、いきいき百歳体操の場から、歳時記の配布や訪問を行うことで、高齢者が高齢者を見守るしくみにつながっています。
みなさんの地域でも、見守り活動につながる取組みを進めてみてはいかがでしょうか。
(本部・一宮支部 三宅あゆみ)

は
が

この体験で、社会に目を向けるきっかけに…

波賀中学校1・2年生「手話学習」

3月17日(木)、波賀中学校の1・2年生が手話学習を行いました。

今回の学習では、聴覚障がい者の生活を体験談等で学び、聞こえないことについての理解を深めました。

そして、聴覚障がい者の言葉である手話を通じ、自分とは違う価値観にふれることで社会に目を向けるきっかけになることを目的に行いました。

講師のろうあ協会八木昌幸^{やぎまさゆき}さんは「耳が聞こえないことは見た目では分かりません^{せん}が、もしかしたら聞こえない人かな^な」と思つて接してもらいたい」と話され、生徒たちに「今度出会つたら話しましょう」とあいさつや自己紹介などの手話を指導されました。

生徒からは「伝えたいという



手話で自己紹介!「私の名前は〇〇です」

気持ちが大切で、言葉でなくても伝えるのにいろんな方法があることを学びました」等の感想がありました。

相手を思いやる心を持つことで、誰にとつてもやさしく住みやすい地域(まち)づくりにつながっていきます。

今回の学習のように、本会では今後も障がいのある人と自発的に交流しようとする気持ちを育くんでいく機会を作っていきます。

(波賀支部 坂本幸子)

ち
くさ

2000円バスに乗って「青い家」へ

千種ボランティア連絡会役員研修

3月24日(木)、千種ボランティア連絡会では、役員研修として路線バスを利用し、「コミュニティハウス青い家」(山崎町高下)を訪れました。

青い家は「地域の人がいなくても誰でも寄れる場所を作りたい」と空き家を借りて、地元の仲間を始められ、毎日喫茶&軽食や様々なイベント、教室が開催されています。

当日は10人が参加し、エーガイヤちくさ発の波賀町皆木^{みなぎ}由山崎行きに乗り込み、山崎でバスを降り継いで青い家に到着しました。

青い家では、代表の小沼^{こぬま}経子^{きんこ}さんから「自分らがあつたらええなと思うことを始めていいたら、縁が縁をよんでね」と立ち上げからこの日までのお話を聞きました。

帰りの車中では、「青い家は喫茶だけでなく、地域の拠点になっているね」「バス



小沼さんの話聞き入る連絡会のメンバー
(コミュニティハウス青い家)

で市内一周して乗り継ぎ方もわかったしええ勉強やったわ」などの感想が聞かれました。

今回の研修では、連絡会の皆さんが自分たちの住む地域にも憩いの場が必要だと感じる機会となりました。自分にできることで地域のつながりが広がるということです。

(千種支部 小原志のぶ)

みんなで大切に育てましょう!



大勢の入居者さんが定植の応援に駆けつけました

3月23日(水)はりま自立の家でブルーベリー植え

はりま自立の家でお手伝いを行うボランティアグループ「ぶるーべりい会」がブルーベリーの定植を行いました。

これは会名にもなっている「ブルーベリー」を入居者の方々と一緒に植えてほしいと施設職員の提案で、ミニ農園に計10本の苗木を植えました。

代表の中村一^{かずひろ}郎さんは「すぐにできる物ではないですが、まず3年、そして5年後にはおいしい実が生えると思います。それまで大切に育てましょう。」と話されました。

施設からよく見えるミニ農園。ブルーベリーの成長が今から楽しみです。(一宮支部 田中祥仁)

抹茶のお手前を披露



見事なお点前です

みなさんと交流するのが嬉しいです

3月31日(木)デイサービスでお茶会

ボランティアグループ「花月」^{はなつき}のメンバー10人が、やすらぎ介護センターで行われたお楽しみ会で抹茶のお手前を披露しました。

「若い時にお点前していた事を思い出しますね。感動しました」と笑顔で話される利用者さんの言葉を聞き、「嬉しそうに話して下さると、やりがいがあります。来て良かったです」と代表の山口澄代^{やまぐちすみよ}さんは話されました。

花月のみなさん、素敵な時間をありがとうございました。今後のご活躍に期待しています。

(山崎支部 横山洋子)



本部・一宮支部

3月11日(金)

東日本大震災から5年。宍粟市ボランティア連絡会では震災で亡くなられた方々の追悼と被災地の復興を祈願し、各支部で追悼行事を行いました。

宍粟から追悼 ～祈り 東北へ～

復興を

忘れない

未来へ



山崎支部



波賀支部



千種支部